

令和6年度 学校運営評価外部委員会 議事概要

日時：令和7年3月21日（金）14時00分～16時00分

場所：よこはま看護専門学校 分館 101 教室

1. 校長あいさつ

48 回生は 3 月 5 日に無事 78 名卒業式を迎えることができた。本校は、創立 50 周年を迎え、卒業生は 2911 人になった。これも皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と深く感謝し、心からお礼を申し上げる。本日は、学校運営評価について、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 教職員紹介

池田副校長より、教職員紹介、配付資料の確認を行った。

3. 「2024（令和6）年度 学校評価報告書」について

【加藤看護科長】

配付資料に基づき、1. 教育活動、2. 学校運営について報告

1) 教育活動について

- ・実践的な学習方法として、ハイブリッドシミュレーターや教育用電子カルテ等を使用し、臨床に近い状況を体験することで、実践的なスキルや臨床判断能力を養うことができる学習環境を整えている。
- ・統合実習の学びでは、保健医療福祉チームの一員として実務に即した看護実践を臨床実習指導者が意味付けるための思考発話により、看護をマネジメントするための学びを得ることができている。

＜教育活動に関する意見交換＞

【荒瀬委員】

ICT 推進によりペーパーレスになったことは良いが、学生が iPad を見るため下を向いていることが多く授業の理解度がわかりにくい。

【長谷川委員】

ペーパーレスはよいと思うが、iPad でどこまで理解しているのかと思う。

【遠藤委員】

今の学生にとって視覚や耳から入ることは理解しやすい。講義を深められるプラスな部分もある。

【倉田委員】

新カリキュラムになり、統合実習が見学実習に近い形になったことで、臨床側が多重課題と優先順位を意味づけることが難しかった。看護師がどのように考え行動しているのか教えていきたい。

【砂田委員】

学生のアセスメント力が弱く、座学の学びから実習場面の意味づけにつながらない。実習時間が短くなり、臨床側の指導方略にも課題がある。

【脇坂委員】

学生と一緒に行動しながら、考えさせ、評価するというプロセスを臨床側もできるよう指導者側の育成も課題である。

【鈴木委員】

今の学生は小学校から ICT 世代である。ICT を使いながらもどのように文章読解力をつけていくかということも課題である。また、対人関係が苦手でコミュニケーション能力が不足しており、SNS なら伝えられ

るが、面と向かって話をする、相手の気持ちを感じながら聞き取るということは苦手である。だからこそ、心理的安全性を考えた環境作りが大切である。

【山内委員】

看護は対面のコミュニケーションが大事である。

【照川議長】

ICT に関してはかなり学校も頑張っている。コミュニケーション能力という点については、別の意味で評価をしていく必要がある。小さな頃から“頑張らなくていい”と教育された世代であり、看護学校で踏ん張れと言われても無理だと思う。そこを理解した上で、学校で ICT に加えて、コミュニケーション能力を強化していく必要がある。

2) 学校運営について

- ・働き方改革の具体的取り組みについては、学生対応のルールを周知するなど、時間外労働を作らないこと、ノー残業デイ等、朝のミーティングから意識して業務調整を進めている。
- ・ハラスメント対策については、2023 年ハラスメント規定を整備し相談しやすい環境づくりに努めている。
- ・専任教員ラダーを作成し、目標管理を行う取り組みを開始した。研修会や学会への参加も増加している。

<学校運営に関する意見交換>

【砂田委員】

病院のラダーはイメージできるが、専任教員ラダーが教育にどう反映しているのか。

【加藤科長】

厚生労働省から教員に求められる能力と共に、自分の役割を自己点検しながら強みと弱みを明確にして教育活動に活かしていけるよう作成した。効果的な運用につながるように検討中である。

【砂田委員】

働き方改革で、学生対応のルールを設けるのはよいが、学生への不利益はないのか、また工夫していることはあるか。

【池田副技幹】

時間は提示しているが必要に応じて学生対応は行っている。また時間を提示することで、時間管理の視点や社会人としてのルールを守れるように支援している。

【倉田委員】

スタッフから休む連絡が電話ではなく SNS で入る。学生時代から社会人としてのマナーを身につけておくのは大事である。

【遠藤委員】

職場でも、相手の時間を考えず相談に来ることもある。残業を減らす学校の取り組みに興味がある。学生のうちからマナーを教えるのは良い。

【荒瀬委員】

欠席や退職などの連絡方法が、皆が納得しているならよいが、そうでない場合は考えなければならない。また（働き方改革に関して）時間外で対応してくれる教員は良い先生だと思っていたが、教員のモチベーションが下がると学生にもよくないので、良い取り組みなのかもしれない。

【近藤副技幹】

配付資料に基づき、3. 学生支援、4. 入学生確保、5. 社会貢献・地域貢献について報告

3) 学生支援について

- ・休学率の増加については、精神的側面の不安定さに加え実習等負荷がかかり、さらに不安定になる学生が多かった。担当が面談し、カウンセリングや受診につなげている。保護者とも連携を取り対応している。

＜学生支援に関する意見交換＞

【脇坂委員】

精神的側面が理由で実習を休む学生が増えている。その原因としては、踏ん張る力が低下していることやコミュニケーション能力の低下が影響していると思われる。学校と臨床が連携して、一緒に患者のもとに行き支援していくことも必要である。踏ん張る力がないのは、新人看護師も同じであり、新卒1～2年目前期までは自分を客観的に見ることができず、自分で決められない。学生時代から、看護職に向いているのか向き合って考える必要がある。

【鈴木委員】

高校では週に1回スクールカウンセリングがあるが、夕方まで予約が入っている。「生きる力」「乗り越える力」を大事にしているが、その力は年々低下している。頑張ってほしい時にどう頑張らせるのが課題である。

【山内委員】

学校以外など、他の人のほうが相談しやすい場合もある。

【長谷川委員】

身体面の不調を訴え、受診する学生が多くいるが、身体の不調が不安から生じることもあり、「失敗したくない」という人が多いと感じている。

【荒瀬委員】

やまゆり祭などで1・2年生が共同でテーマをもって発表するのはどうか。地域の方たちとコラボレーションすることで、学生自身が必要とされていると感じることができるとよいのではないかと思います。

【山内委員】

高齢者とのコミュニケーションを図り、高齢者理解を深める授業があるが、その際に高齢者から失敗体験を語ってもらってもよいのではないかと。学内で相談する場が少ないのが気になる。予約の方法を含めて検討が必要である。

4) 入学生確保について

- ・広報の強化については、学校パンフレットを刷新し、学生の学校生活や実習での様子、受験生へのメッセージ等を入れ、受験生が関心をもてるよう工夫した。
- ・定員の検討については、県の医療整備・人材課に報告している。入試の日程や内容については県立看護専門学校3校で共有し、校内の入試委員でも広報等できることは行っている。
- ・社会人学生の確保等にむけ、専門実践教育訓練給付金制度を活用し、社会人に向けアピールしていく。

＜入学生確保に関する意見交換＞

【鈴木委員】

よこはま看護専門学校の学生は挨拶ができ、高校生がそれを見ている。全体的には、大学志望者が増えているが、学校説明会などで学生の姿を見せることで、あそこに行きたいということにつながっている。大学志向ではあるが、伝統があるこの学校の魅力や良さをアピールしてほしい。

【脇坂委員】

教員の質も良く、学生たちが大事に育てられている。学生数が減ることは就職にも影響を及ぼすため、頑張ってほしい。以前、地域の病院と学校が連携して一緒に高校訪問をしたことがある。地域に根差す良い教育をしているというアピールをしていけば大丈夫だと思う。

【砂田委員】

大学への進学が増えているが大学も定員割れをしている。少子化ではあるが18歳人口はそれほど減少していないため、県外へ流れているのではないかと。社会情勢的に3年制の専門学校は厳しいのかもしれない。親の意向も強いので、看護師を育てていくのは大変であるが、学校と臨床とが連携して育てていかなければならない。

【長谷川委員】

オープンキャンパスの人数は？

【東出副技幹】

今年度は300人程だが、去年より少なくなっている。学生のボランティアで学校の魅力をアピールしている。参加者には好評で、教員が優しそうという意見もいただく。前回のオープンキャンパスは対面とZoomのハイブリッド形式で行った。参加者の需要もあることが分かったので次年度以降も取り入れていきたい。

5) 社会貢献・地域貢献

- ・学校周辺の自治体や医療施設等との連携では、やまゆり祭や授業における老人クラブ連合会との連携を通じて、地域との交流が深まっている。
- ・地域におけるボランティア活動は、自ら積極的に活動する力が育まれ有益な活動であるとともに看護師を目指す上で大きな意味を持つ。

＜社会貢献・地域貢献に関する意見交換＞

【山内委員】

地域の防災訓練や福祉祭りに参加してもらいたい。

【東出副技幹】

次年度はやまゆり祭の開催時期が変わるので、難しい部分があるかもしれない。

【照川議長】

看護学生は忙しいが、学生にとってボランティア活動は充実したものになっている。ボランティア活動についても、参加してよかったと思う学生が大半なので、きっかけ作りが大事だと思うので続けてほしい。

令和6年度の全体評価として、学校運営は概ね問題なく実施できていると総括してよいのか。（出席している全ての外部委員から了解を得た。）

最後に、本日の会議資料や公開が適当ではない情報について確認を行った。公開を予定しているものは、1点目として、2024（令和6年）年度の学校評価報告書に当委員会としての評価結果を記入したもの、2点目として、議事概要とする。また、個人情報に関する内容は議事概要から削除することを確認した。

○杉山校長より謝辞を述べ、閉会。